

ASEAN

から相互理解・相互協力を学ぶ
～日本の進むべき道を考える～

2013年11月19日(火)
宇都宮大学 多目的ホール

プログラム

総合司会 : 石川 賢祐 (教育学部総合人間形成課程4年)

13:00 挨拶

13:10 基調講演

カンボジア プノンペン大学 オム・ラヴィ氏
"Cambodia, ASEAN and the Cultural Exchange".
タイ カセサート大学 ナロンチャイ・ピパッタナウォン氏
"Thailand, ASEAN and the Educational Exchange".

14:20 休憩

14:30 パネルディスカッション

「ASEANから相互理解・相互協力を学ぶ」

司会 : 高際 澄雄

(国際学部教授・附属多文化公共圏センター長)

パネリスト : オム・ラヴィ氏

ナロンチャイ・ピパッタナウォン氏

佐藤 唯 (国際学部国際社会学科1年)

兼子 由衣 (国際学部国際社会学科4年)

花岡 愛美 (国際学部国際文化学科4年)

長谷川 理恵 (農学研究科農業環境工学専攻2年)

宇都宮大学留学生 2名(交渉中)

コメンテーター : 山根 健治

(農学部教授・バイオサイエンス教育研究センター長)

重田 康博

(国際学部教授・附属多文化公共圏センター副センター長)

15:20 休憩

15:30 グループディスカッション

16:00 グループディスカッションで出た意見のまとめ

16:25 閉会の挨拶

16:30 終了

17:00 懇親会ー談話室にて開催します(学生300円、一般500円)

講師紹介

オム・ラヴィ氏

王立プノンペン大学副学長。博士。1969年カンボジア生まれ。王立プノンペン大学人文学部卒業後、1996年より上智大学大学院に留学、2002年博士(地域研究)の学位取得。2002年より王立プノンペン大学教授。2004-2010年、カンボジア・日本人材開発センター長。カンボジア政府より優秀業績賞金賞受賞。カンボジアと日本の交流に尽力した功績が認められ、王立プノンペン大学副学長に抜擢される。日本では育児をしながら学業を続けたという経験を持つ。

ナロンチャイ・ピパッタナウォン氏

カセサート大学副学長。博士。1959年生まれ。1983年カセサート大学卒業後、宇都宮大学大学院へ留学。1994年修士の学位取得。その後東京農工大連合大学院へ。1997年博士(農学)の学位取得。専門は園芸学でイチゴ、ブルーベリーなど果物についての研究を行う。王立プロジェクトによるタイ山岳地帯の農業改善に向けた研究・普及に携わる。多くの大学や教育機関にて特別講演を行う。

主催/宇都宮大学国際学部、
宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター
宇都宮大学生国際連携シンポジウム

学生実行委員会2013

後援/栃木県、宇都宮市(申請中)

実行委員会紹介

長谷川 理恵

(農学研究科農業環境工学専攻2年)

卒業論文・修士論文を通じて、タイ・チャオプラヤデルタの灌漑地域で現地調査をしてきました。今回は、専門分野だけでなく様々な面から各国との相互協力の在り方について考えたいです。

兼子 由衣

(国際学部国際社会学科4年)

日本とアジアのこれからの関わりに興味があり、また日中韓の関係が変化していく中でASEANの団結に学ぶことがあるのではと思い、シンポジウムに参加しました。

石川 賢祐

(教育学部総合人間形成課程4年)

今回シンポジウムの実行委員会に参加し、ASEANとの関わりが無かった私にとって、非常に刺激を受けるものとなりました。来年から社会人になりますが、今後ASEANの国々との関係は不可欠です。このシンポジウムがいいきっかけになればと思います。

金森 夏実

(国際学部国際社会学科2年)

知っているようでよく知らないASEAN。2015年に大きな変化を迎えるということ、私は今回初めて知りました。EUについては学校で勉強してもASEANを習うことは珍しいことだと思います。

山根 健治

(農学部教授・バイオサイエンス教育研究センター長)

タイ国カセサート大学やキングモンクット工科大学院と研究交流を行う。ASEAN諸国の学生(博士7名、修士3名、研究留学生5名)の教育に携わる。

重田 康博

(国際学部教授・附属多文化公共圏センター副センター長)

国際協力NGO研究、グローバル・ガバナンス研究、国際協力研究に関わる。現在福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト代表。著書に『NGOの発展の軌跡』(2005年)、「第4章ミレニアム開発目標」田中治彦編著『開発教育』(学文社、2008年)他。2005年、「第4章ミレニアム開発目標」田中治彦編著『開発教育』(学文社、2008年)他。

佐藤 実紅

(工学研究科地球環境デザイン学専攻修士1年)

専攻は建築計画(保育施設等)です。ASEANの知識はまだまだ浅いため、今回を機に学んでいきたいと考えています。本シンポジウムが、ASEAN諸国の文化や教育体制等を知りみんなで考える場になるよう、実行委員としてサポートできればと思います。

花岡 愛美

(国際学部国際文化学科4年)

東南アジアの10か国からなるASEAN加盟国を知っていますか？以前、私は、ASEANという言葉だけ知っているだけで、すべての加盟国をいうことができませんでした。しかし、昨年の、ASEAN加盟国の学生との交流会をきっかけに、興味を持ち、ASEANと日本の関係について勉強し始めました。今回のシンポジウムで、多くの人にASEANについて知ってもらい、日本とASEANの関係について考えていきたいです。

石田 沙希

(国際学部国際社会学科3年)

経済成長が著しいASEAN諸国を何度か訪れる中で、私はASEAN諸国の風土や文化、そこで暮らす人々の生活様式などに関心を抱きました。今回は平和構築の見地から、今後のASEANの変遷や展望について学びたいと思い、参加いたしました。

佐藤 唯

(国際学部国際社会学科1年)

高校の頃、カンボジアに研修に行ったことがきっかけでASEANに興味を持ちました。同じアジアに住む人間としてどのような関係を築いて行くべきか、またASEANに所属する国同士の関係性はいかなるものか、などASEANの「繋がりを考えたい」と思い参加しました。

高際 澄雄

(国際学部教授・附属多文化公共圏センター長)

専門領域イギリス文化・文学研究。主として、イギリス18世紀文学と文化を研究に従事。現在ヘンドルの歌劇と文学の関係性を調査。「ロデリック・ランダムにおける奴隷貿易」(『イギリス18世紀文学研究』開拓社1996)、「ボイスの第2セシリアオードにおける詩と音楽」(『イギリス18世紀文学研究』開拓者2010)など。

会場アクセス

宇都宮大学峰キャンパス
〒321-8505
宇都宮市峰町350

お問合せ

宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター
TEL/FAX:028-649-5228
E-mail:tabunka-c@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

